

北アルプス（朝日・^{はくぼ}白馬連山）生物群集保護林

管轄森林管理局・署	中部森林管理局・富山森林管理署、中信森林管理署
所在地	富山県朝日町、黒部市、長野県白馬村
面積	6,075.52ha
設定年	昭和48年4月1日設定（白馬）、平成3年4月1日設定（朝日） （平成30年4月1日変更）
保護林の概要 （設定目的）	日本海側気候の特長を示すブナ帯から高山帯にかけての代表的な森林帯が分布している。朝日岳（2,418m）から日本海までの距離は18kmと短く、冬期の季節風を直接受けるため代表的な日本海側の植生となっている。また、朝日岳から白馬岳（2,933m）一帯は、山岳の地形が変化に富んでいるうえ、特殊な超塩基性の蛇紋岩地帯もあるため、400種にも及ぶ高山植物の宝庫となっている。このため、国の特別天然記念物「白馬連山高山植物帯」に指定されている。こうした地域の貴重な植物群落の保護・管理を図る。



モニタリング調査の概要

実施年度	令和2年度
調査項目	森林詳細調査（樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査、病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況調査）、その他の調査等（資料調査・聞き取り調査）
調査手法	森林詳細調査としてブナやダケカンバ、オオシラビソ、高山植物等の生育地において調査プロットを6箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。
結果概要	亜高山帯ではダケカンバ林やミヤマハンノキ林、オオシラビソ林などが成立しており、高山帯ではガンコウランなどが優占する高山植物群落などが確認され、これらの群落で実施した調査の結果に過年度からの大きな変化はなかった。また、ヤマルリトラノオやカライトソウ等の希少種を含む多数の高山植物も確認された。 現在のところ、ニホンジカ等による顕在化した植生被害は確認されておらず、保護林の健全性が保たれていると言えるものの、猿倉林道ではニホンジカと思われる食痕が、また、亜高山帯の湿地でイノシシによる堀跡が確認された。今後のニホンジカやイノシシの高標高地への分布拡大等には注意が必要である。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。